

特定行為区分	創部ドレーン管理関連		時間	15
特定行為名	(A) 創部ドレーンの抜去			
学ぶべき事項	(共通) 創部ドレーン管理関連の基礎知識	1. 創部ドレナージに関する局所解剖 2. 創部ドレナージを要する主要疾患の病態生理 3. 創部ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 創部ドレナージの目的 5. 創部ドレナージの適応と禁忌 6. 創部ドレナージに伴うリスク（有害事象とその対策等）		
	(A) 創部ドレーンの抜去	1. 創部ドレーンの抜去の適応と禁忌 2. 創部ドレーンの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等） 3. 創部ドレーンの抜去の方法と手技		
研修概要	(共通) 創部ドレーン管理関連の基礎知識	創部ドレーンの必要性やその特徴を理解し、創部ドレーンの抜去を実践できる看護師を養成する。		
	(A) 創部ドレーンの抜去	医師の指示の下、手順書により、身体所見（排液の性状や量、挿入部の状態、発熱の有無等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、創部に挿入・留置されている状況又は患者の状態が長期にわたって管理され、安定している状況において、創部へ挿入・留置されているドレーンを抜去する。抜去部は、開放または閉塞性ドレッシング剤の貼布を行う。縫合糸で固定されている場合は抜糸を行う。		
到達目標	1. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、創部ドレーンの抜去ができるようになる。			
	2. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。			
	3. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。			
	4. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。			
評価方法	講義：eラーニングの受講及び講義確認テスト			
	実習：各種実習の観察評価			
	試験：eラーニング上もしくは集合で修了試験を実施			
研修内訳	講義（8時間）	視聴時間45分＋講義確認テスト15分		
	実習（5時間）	実習は、指導者の指導の下、指定研修機関で行う		
	試験（2時間）	修了試験60分		

学ぶべき事項		講師	所属	研修方法	通番
(共通) 創部ドレーン管理関連の基礎知識	創部ドレナージに関する局所解剖	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	1
	創部ドレナージを要する主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント	川口 晃	長浜赤十字病院 救急部	講義	2
	創部ドレナージの目的	川口 晃	長浜赤十字病院 救急部	講義	3
	創部ドレナージの適応と禁忌、伴うリスク（有害事象とその対策等）	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	4
	実習	指導者	指定研修機関	実習	5
	創部ドレーン管理関連の基礎知識 修了試験			試験	6
(A) 創部ドレーンの抜去	創部ドレーンの抜去の適応と禁忌	須原 貴志	下呂市立金山病院 院長	講義	7
	創部ドレーンの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等）	豊田 泉	岐阜県総合医療センター救命救急センター	講義	8
	創部ドレーンの抜去の方法と手技（1）	須原 貴志	下呂市立金山病院 院長	講義	9
	創部ドレーンの抜去の方法と手技（2）	豊田 泉	岐阜県総合医療センター救命救急センター	講義	10
	創部ドレーンの抜去 見学又は手伝い	指導者	指定研修機関	実習	11
	創部ドレーンの抜去 実習	指導者	指定研修機関	実習	12
		指導者	指定研修機関	実習	13
		指導者	指定研修機関	実習	14
創部ドレーンの抜去 修了試験			試験	15	